

福島イノベーション・コスト構想と 福島国際研究教育機構（F-REI）

令和8年2月10日



企画調整部 福島イノベーション・コスト構想推進課

福島イノベーション・コスト構想の歴史

- 2011年 3月 東日本大震災の発生(11日)、原子力発電所の事故（12、14、15日）、長期にわたる広域避難指示
→浜通り地域等の産業基盤、雇用が壊滅的な被害
- **2014年 6月 福島・国際研究産業都市（イノベーション・コスト）構想研究会報告**
→「世界が注目する浜通りの再生」を「一番ご苦労された地域が、一番幸せになる権利がある」との固い信念で推進／重点分野：廃炉、ロボット、エネルギー関連、農林水産
- 2015年 8月 福島相双復興推進機構設立（福島相双復興官民合同チーム創立）
- 2016年 9月 福島新工ネ社会構想発表
→再工ネを重要な柱に位置付けるイノベ構想を加速させ、エネルギー分野から復興を後押し
- 2016年11月 (県) ふくしま医療機器開発支援センター開所
- **2017年 5月 福島復興再生特別措置法の一部改正法成立**
→「福島イノベーション・コスト構想」推進を法定化＝国家プロジェクトへの位置付け
- 2017年 7月 福島イノベーション・コスト構想推進機構設立
- 2019年12月 「福島イノベーション・コスト構想を基軸とした産業発展の青写真」のとりまとめ
→「あらゆるチャレンジが可能な地域」「地域の企業が主役」「構想支える人材育成」を3本柱に産業集積に向けた取組を推進／重点分野の追加：医療関連、航空宇宙
- 2020年 3月 (県) 福島ロボットテストフィールド全面開所 ※2025年に県から現物出資しF-REIに統合
- 2020年 9月 (県) 東日本大震災・原子力災害伝承館開館
- 2021年11月 (県) 医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター浜通りサテライト開所
- **2023年 4月 (国) 福島国際研究教育機構（F-REI）開所**
- 2025年 6月 「福島イノベーション・コスト構想を基軸とした産業発展の青写真（改定）」
→「イノベ構想をもっと身近に、未来を現実に」を理念に、これまでの取組に「地域の稼ぎ」「日々の暮らし」「担い手の拡大」の視点を追加し、具体的な地域課題の解決や、地域への誇り・愛着、暮らしやすさ等の実感向上につなげていく

福島イノベーション・コスト構想の取組

あらゆるチャレンジが可能な地域



○福島浜通りロボット 実証区域

ロボットの研究開発を積極的に支援するため、県内の橋梁やダム、河川、山野などを実証試験や操縦訓練の場として提供。

試験誘致件数：1,594件
(H30年7月からR7年2月末まで)

地域を実証フィールドとして活用する企業等の呼込み

○浜通り地域等への企業誘致

優れた立地環境や各種優遇制度等を紹介するセミナー、産業団地を巡る現地見学ツアーや、個別現地案内等実施し、浜通り地域等への企業誘致を促進。

浜通り地域等における

累計企業立地件数・雇用創出数

企業立地件数：433件

雇用創出数：4,972人 (R6年3月末時点)

※新規設に対する補助金の採択ベース



○地域復興実用化開発等 促進事業

地元企業との連携等による地域振興に資する実用化開発等を促進。
延べ554件の事業を採択 (H28～R6)

- H28 : 46件
- H29 : 68件 (うち新規採択33件)
- H30 : 83件 (うち新規採択35件)
- R1 : 61件 (うち新規採択31件)
- R2 : 69件 (うち新規採択29件)
- R3 : 70件 (うち新規採択36件)
- R4 : 60件 (うち新規採択20件)
- R5 : 53件 (うち新規採択21件)
- R6 : 44件 (うち新規採択20件)

○イノベーション創出 プラットフォーム事業

Fukushima Tech Create

…起業・創業ステージに応じた3つのプログラムにより、イノベ地域において事業化に至るまでの様々な支援を実施。

支援実績

- ・ビジネスアイデア事業化プログラム …採択18件
- ・アクセラレーションプログラム…採択10件
- ・先導技術事業化アクセラレーションプログラム…採択7件



構想を支える人材育成

自立的・持続的な産業発展を成し遂げるため、地域でイノベーションを生み出す人材と産業集積を支える人材を育成する

小中学校、高校におけるキャリア教育の推進



○小中学校

構想の実現に貢献する人材育成の裾野を広げるため、双葉郡8町村が連携して取り組む探究的な学習「ふるさと創造学」の実施を支援。

○高等学校

福島イノベ構想の実現に貢献する人材育成成果報告会

構想に関する教育プログラムの成果報告会を開催。
県内高校21校、約140名参加
(2/17 郡市)



○ふくしまイノベ未来講座 (広域連携促進事業)

福島県内全域の学校に対して、イノベ構想に関わる有識者を招聘する出前講座。

福島イノベ構想産業人材育成・確保事業

工業高校生等を対象とした地元企業の見学等の取組を支援し、地元就職を促進する事業。



福島国際研究教育機構

福島国際研究教育機構 (F-REI) の機能の最大化



令和6年6月に、F-REI、福島イノベ構想推進機構、県の3者で包括連携協定を締結。協定に基づき、中通り・会津地域でセミナー・座談会を合同で開催したほか、県内大学等へのトップセミナーの開催、50を超える委託研究の実施など、「創造的復興の中核拠点」を目指した取組を着実に実施。



イノベ構想推進分科会

第5回福島イノベーション・コスト構想推進分科会の開催

復興副大臣、経済産業副大臣兼原子力災害現地対策本部長、知事が共同議長として、浜通り地域等15市町村長や有識者他とともに、福島イノベ構想の更なる発展に向けた情報共有や意見交換等を実施。
(6/24 いわき市)



課税の特例

課税の特例 (イノベ税制)

イノベ構想の重点分野の取組を推進するため、新産業創出等推進事業を行う事業者を対象として固定資産税の課税免除等により支援。

令和6年度認定実績

- ・航空宇宙分野に係る取組(南相馬市ほか)
- ・農林水産業分野に係る取組(川俣町)など
計4件



大学等による教育研究活動 (復興知事業)

イノベ地域での人材育成基盤の構築を目指し、大学等の教育研究活動を支援。

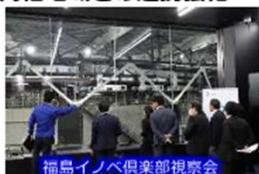
17大学等21プロジェクトを採択



地域の企業が主役

最先端分野だけでなく、地域に根ざした産業を含め地元企業が幅広く構想に参画できるよう、地元企業と進出企業の連携を広域的に進めます

地元企業の参画拡大、県内他地域との連携強化



○福島イノベ俱楽部

異業種間の連携、地域間の連携

地元企業と進出企業との連携

による新事業の創出や取引拡大

を目標とする異業種交流の場。

会員数：171企業・団体

(正会員135、賛助会員36)

・総会・交流会 (7/4 いわき市)

・視察会・交流会

(10/30 宮城県角田市、仙台市内)

・研修会・交流会 (2/12 南相馬市)

45ブース出展、参加者 519名

○福島イノベ企業合同プレス発表会の開催

浜通り地域等への進出企業や新しい取組を行っている地元企業等の活動を支援するため、取組内容や成果を広く発信する合同プレス発表会の開催。

第1回 (7/5) 発表企業3社(ドローン関連の事業化開始製品)

第2回 (10/9) 発表企業1社(日本で初めて商業運用に成功)

第3回 (1/21) 発表企業5社(RTFをテーマに東京で開催)

第4回 (2/12) 発表企業1社(耐火塗料木材パネルが大臣認定合格)



F-REI設立はイノベ構想から

福島・国際研究産業都市（イノベーション・コスト）構想研究会

報告書

— 世界が注目する浜通りの再生 —

平成26年6月23日

福島・国際研究産業都市（イノベーション・コスト）構想研究会

2. 新しい産業基盤の構築

(1) 国際産学連携拠点の整備

浜通りにイノベーションを興し、新たな産業基盤を構築するためには、学術的基盤の整備と世代を超えて様々な分野の研究者や技術者を育成し、輩出された人材が、長期にわたり浜通りの復興をリードしていく体制の整備が必要である。

①国内外の研究機関のための国際的な産学官共同研究室

- ・ 廃炉を進めるための技術開発には、国内外の原子力関係研究機関の英知の結集が必要である。また、廃炉以外にも福島の環境回復や住民の健康管理、社会科学的研究等について、多くの研究者が既に研究を進めている。
- ・ 一方、多くの研究者から「福島現地での研究が容易ではない」、「福島第一原発の廃炉研究に関して大学からの直接の関与が難しい」等の懸念が示されている。また、廃炉に関する研究を着実に行うためには、研究実証の場である福島第一原発近傍で実施できる環境が整備されることも望まれている。
- ・ このような全国の大学側が持っている復興関連研究に対する自発的な意欲を基本に、福島現地における大学の研究教育活動を誘導することで、福島復興に対する大学の関与を拡大させ、その研究成果を復興や廃炉の加速に繋げるとともに、現地の「学術的かつ教育的価値」を高め、地域の活性化と復興につなげる。
- ・ これらの視点に基づき、各機関と国が、それぞれが負担する形で、国内外の研究者が継続的に駐在し、基礎的・基盤的な研究が実施できる共同研究室を設置する。
- ・ 研究テーマとしては、汚染環境の調査や環境回復に関する研究、農林水産業の復興につながる研究、ロボット技術に関する研究、福島復興につながる技術の研究、社会科学的な研究、住民の健康確保につながる医学面での研究、廃炉や汚染水の問題解決に関する先端的な基礎研究などが考えられる。
- ・ また、研究開発の成果を地元で事業化するため、地元企業と大学・企業・研究機関を結びつけるマッチングプランナーの配置や、ベンチャー企業支援や企業集積につながる政策支援や規制緩和についても今後検討が必要。

（参考）国際産学連携拠点の整備に伴う制度特区の創設について現時点で想定される項目

- 企業集積促進税制
- ベンチャー企業支援税制
- 創業支援（産業競争力強化法の特例）
- 復興特区法を上回る研究開発促進税制
- 特許料の軽減措置（産業競争力強化法の特例）
- 研究開発における自己負担軽減のための利子補給制度
- 新規ビザ緩和等海外からの研究者・技術者受け入れの環境整備 等

イノベ構想とF-REI

R5.11第4回福島イノベ
構想推進分科会資料

- 福島イノベーション・ココスト構想を更に発展させ、既存の研究施設等の取組に横串を刺す 司令塔となる中核拠点を設立することで、研究開発や産業化、人材育成の動きを加速化
- イノベ構想の産業集積等の取組は、F-REIの研究開発・産業化等に貢献

浜通り地域等の新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト

福島イノベーション・ココスト構想

推進機関：
(公財)福島イノベーション・ココスト構想推進機構

- ◆ 福島第一原発の事故収束を進めながら新たな産業基盤を創出するため「あらゆるチャレンジが可能な地域」「地域の企業」が主役」「構想を支える人材育成」の3つの柱の下、以下の幅広い取組を実施。
- 産業集積(廃炉のための研究開発拠点・福島ロボットテストフィールド等の実証フィールド拠点を順次整備、企業誘致、実用化・事業化支援等)
- 教育・人材育成
- 交流人口・関係人口の拡大
- 情報発信 等

司令塔

協議会を組織し、福島全体で最適な研究開発体制を構築するなど、既存施設等の取組に横串を指す機能を発揮

研究開発

福島の優位性が発揮できる5分野で、被災地ひいては世界の課題解決に資する研究開発を推進

創造的復興の中核拠点を目指す国の特別な法人

福島国際研究教育機構 F-REI

産業化

F-REI発ベンチャー企業等の創出、企業等との連携による共同研究や技術移転等を実施し、産業集積の形成を推進

人材育成

研究開発を通じ、大学院生等を対象とした人材育成、地域の未来を若者世代を対象とする人材育成等を実施

我が国の産業競争力を世界最高の水準に引き上げ、経済成長や国民生活の向上に貢献

福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望となるもの

緊密な連携と協働

「全体としてさらに連携を進めるための仕組み等が必要」
「研究者や技術者の人材育成体制や学術基盤の整備が必要」
「経済効果を福島全体へ波及させていくことが重要」などの指摘

創造的復興の中核拠点を目指す国の特別な法人を設立

イノベ構想とF-REIの関係

イノベ構想重点6分野

プロジェクト1

国内外の英知を結集した技術開発

廃炉



廃炉作業などに実証試験を実施する「福島県立技術研究開発センター」(南相馬市)、
廃炉に向けた研究開発・人材育成を行う「東京電力国際共同研究センター」(郡山市)

プロジェクト3

先端的な再生可能エネルギー・リサイクル技術の確立へ
エネルギー・環境・リサイクル



浜通り地域等全体において、再生可能エネルギーの計画的かつ円滑な導入促進を図るとともに、太陽光発電や風力発電等による共用送電線を整備して再生可能エネルギーの導入を加速化

プロジェクト5

技術開発支援を通じて企業の販路を開拓

医療関連



浜通り地域等の企業等への技術移転やコンサルティング支援等により医薬品開発、医療機器の開発から事業化までを一貫して支援する国内初の医療機器開発支援センター「ふくしま医療機器開発支援センター」(郡山市)

プロジェクト2

福島ロボットテストフィールドを中心としたロボット産業を集積
ロボット・ドローン



陸・海・空のフィールドロボットの使用環境を再現した福島ロボットテストフィールド(南相馬市・浪江町)、ロボット・ドローンの実証試験や練習訓練の場として、浜通り各地を介す

プロジェクト4

ICTやロボット技術等を活用した農林水産業の再生
農林水産業



機械化によるタマネギ直播栽培技術の普及、肥育途中で肉用牛の内質が診断できる「AI超音波肉質診断技術」の普及

プロジェクト6

次世代航空モビリティの開発や関連企業の競争力強化
航空宇宙



航空宇宙開発産業の技術交流や商談、普及啓発を目的に開催している「航空宇宙フェスティふくしま」

F-REIの研究5分野



ロボット

廃炉作業の着実な推進を支え、災害現場等の過酷環境下や人手不足の産業現場等でも対応が可能となるよう、ロボット等の研究開発を行います。



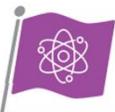
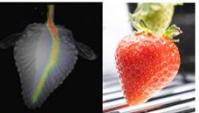
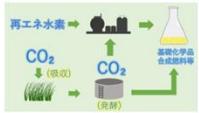
農林水産業

スマート農業やカーボンニュートラル等を通じた地域循環型経済モデルの構築を目指し、超省力・低コストな持続性の高い農林水産業に向けた実証研究等を行います。



エネルギー

福島を世界におけるカーボンニュートラル先駆けの地とするため、水素エネルギー・ネットワークの構築や、ネガティブエミッション技術の研究開発等を進めます。



放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用

オールジャパンの研究推進体制の構築と放射線科学に関する基礎基盤研究やRIの先端的な医療利用・創薬技術開発及び超大型X線CT装置等を中心とした技術開発による放射線の産業利用を実現します。



原子力災害に関するデータや知見の集積・発信

自然科学と社会科学の研究成果等の融合を図り、原子力災害からの環境回復、原子力災害に対する備えとしての国際貢献、更には風評払拭等にも貢献します。

また、F-REIを核とした復興まちづくりの効果検証研究を実施し、活力ある地域づくりにつなげます。

浜通り地域等の新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト

福島イノベーション・コーズト構想を更に発展させ、既存の研究施設等の取組に横串を刺す

産業化の取組

F-REIにおける研究開発を、福島をはじめ東北の復興に結び付けるためには、広く企業や関係機関を巻き込みながら、実用化や新産業創出に着実につなげていく。

【令和6年度までの取組】

➤ 東邦銀行（R6.1）や東京海上日動火災保険（R7.2）との包括連携協力

基本合意書に基づいて、互恵的な連携協力を進め、F-REIの認知度向上、地元企業とのネットワーク構築、研究成果の社会実装などを推進。



➤ 産学官ネットワーク・セミナー（R5.10, R7.3）

東北の復興を見据え、福島県内外の企業他を巻き込んだ産学官の連携体制構築の機会とするため実施。R6年度は東邦銀行と共同で開催。



➤ 市町村座談会

研究開発・産業化・人材育成の取組における広域連携体制構築を図るため、市町村や住民、企業・団体等、多様な主体との対話の場として実施。R5年度は浜通り地域等の15市町村で、R6年度は研究テーマ別に浜通り地域で2回、中通り・会津地方で4回実施。



【令和7年度以降の取組】

➤ 産学官ネットワーク・セミナー

令和8年3月17日に福島市において、農林水産業分野の研究内容を中心に情報発信しながら、企業等とのネットワークを構築する。

➤ F-REI座談会

対話を通じて地域の産業関係者等にF-REIの研究開発内容を伝えるとともに、産業化、社会実装を見据えたネットワークの構築を図る場として開催。

○浜通り地域等ではテーマ別で開催

- ・令和7年7月11日 エネルギー分野（いわき市）
- ・令和7年12月22日 ロボット分野（南相馬市）



○福島県主催の福島イノベ構想参画促進セミナー

（令和7年8月7日 須賀川市、令和7年10月22日 二本松市、
令和7年12月4日 会津若松市）、

福島イノベ構想・F-REIコミュニティフォーラム

（令和7年11月14日 会津若松市）にて、F-REIの取組について説明

➤ 企業が多く集まるイベントでのブース出展

企業に向けた情報発信により機構の存在感を示し、産学連携を図るため、県内を中心としたイベント等でのブース出展を積極的に行い、研究内容や進捗を説明していく。

➤ World Robot Summit 2025 過酷環境F-REIチャレンジ

災害対応やインフラ点検を担うロボットに対する性能評価手法の検討を進め、当該評価手法の普及・標準化を目的とした国際的な競技会を開催。課題解決に向けた新たなイノベーションの創出を目指し、最先端のロボット技術やソリューションの競争・実証の場。

・令和7年10月10日～12日（福島ロボットテストフィールド）



人材育成の取組

イノベーションを創出し、新たな産業基盤の構築を通じて、立地地域等をはじめとする福島や東北の創造的復興を実現し、ひいては世界の課題解決を目指し、立地地域等において様々な分野の研究者や技術者を育成する体制を構築する。

【令和6年度までの取組】

➤ F-REIトップセミナー

- ・福島県内外の大学、高等専門学校の学生を対象に、理事長等の機関のトップ陣によるセミナーを開催。
R5年度は16回、R6年度は7回実施。
- ・また、R6年度は、県内高校向けに、F-REI研究者によるSTEAM教育等の出前授業を、イノベ機構の事業を通じて9回実施。



➤ 連携大学院制度の拡充

東北大大学院医学系研究科と「放射線環境生体医学連携講座」の設置に関する協定を締結(R6.3)。東北大（医学系）では、学生受け入れ・指導開始。



➤ F-REIサイエンスラボ

- 小中学生等が科学技術に触れる多様な機会として実施。
- ・「放射線をさがせ（霧箱観察と放射線計測実習）」(R6.1)
 - ・「ドローンプログラミング教室」、「親子でワクワク科学教室」(R6.8)



➤ ふくしま未来創造プログラム

- ・「ふくしま未来創造プログラム(R6.12)」を会津大学と共に一部試行。

➤ その他

体験学習会(R5.10)、専門教育・リカレント教育(R6.3、R7.3)、国際メンタリングワークショップでの講演(R6.7)、大学・高専での出前講義(R5:2校、R6:6校)を実施。

【令和7年度以降の取組】

➤ F-REIトップセミナー

継続して実施。

〔会津大学（R7.5.27）、（福島大学（R7.6.11）、福島高専（R7.6.18、6.19）、筑波大学（R7.7.14）、福島県立医科大学（R7.11.7）〕



➤ 出前授業

継続して実施。年10回程度実施を予定。

〔原町高校（R7.7.4）、日本大学東北高校（R7.7.28）、磐城高校（R7.8.4）、会津学鳳高等学校（R7.10.28）、安積黎明高等学校（R7.11.26）、ふたば未来学園高校（R7.12.9）、福島高校（R7.12.17）〕

➤ F-REIサイエンスラボ

小中学生等が科学技術に触れる多様な機会として実施。

R7年度は9月13日(土)に開催。

出張版〔浪江町（R7.6.28-29）、郡山市（R7.8.3）、相馬市（R7.10.4）、福島市（R7.11.29）〕



➤ サマースクール

高校・大学生を対象に、将来の研究者となるための研究体験を行う機会として実施。

R7年度は8月25日(月)～8月27日(水)に開催。

➤ 連携大学院制度

継続して実施

➤ その他

出前講義〔相双地区理科教員向け（R7.6.27）、東北大（R7.10.30）、獨協医科大学（R7.11.27）〕

研究体験講座（R7.8.1）

国際STEAMワークショップ in Fukushima 2025 (R7.8.16～17)



司令塔の取組

F-REIのリーダーシップの下で、既存施設や大学等の各機関が福島において取り組む新たな産業の創出等に資する研究開発に関する計画等を持ち寄り、協議会での議論を通じて、研究開発力を結集するための目標やビジョンの共有を図る。

【令和6年度までの取組】

▶ F-REI協議会の組織・運営

各WGでの議論・決定等を踏まえた、新産業創出等研究開発施策の実施に関する司令塔機能の発揮を図る。7府省庁、福島県、浜通り地域等15市町村、大学、研究機関等の35の構成員が参画。R6年度までに協議会を3回、広域連携WGを3回、研究開発等WGを2回開催。



▶ 連携協力に関する基本合意書等の締結

F-REIのミッションを円滑に進めるとともに、F-REI設置の効果を広域的に波及させるため、研究開発・人材育成等における連携、双方の資源を有効的に活用した協働活動等、締結先に応じた協定を締結。R5年度は9件、R6年度は東北はじめ国内外の10件締結。



【令和7年度以降の取組】

▶ F-REI協議会の組織・運営

令和7年7月29日に第4回協議会を開催。



▶ 連携協力に関する基本合意書等の締結

基本合意書や包括連携協定等について、東北をはじめ広く国内や海外の機関も含めて締結することを目指し、積極的な活動を実施していく。

▶ 放射性物質の環境動態研究に関する統合

- ・日本原子力研究開発機構（JAEA）廃炉環境国際共同研究センター（CLADS）
- ・国立環境研究所（NIES）福島地域協働研究拠点

⇒基本協定等を締結（R6.7.8）し、これらの施設における放射性物質の環境動態研究に関する部分について統合（R7.4.1）



▶ 福島ロボットテストフィールド(RTF)の統合

ロボット分野を中心とするF-REIの研究開発、产业化、人材育成に関する機能をRTFに付加することにより、RTFの更なる発展・活用を目指す。

⇒基本合意書を締結（R6.6.14）し、統合（R7.4.1）

